南無阿弥陀仏は
私のいのち

えこお
平成29年
9月号
NO.
476
9

〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
http://saitokuji.tobiiro.jp/
発行人 脇阪 義幸
印 刷 日生印刷(株) 03-6863-3263

岡崎別院（京都・大谷派）

往き先がわかれば 生き方がわかる

仏語に『帰家穏坐』という言葉がある。家に帰ってゆっくり落ち着くのが一番という意味である。

今年のお盆も「民族の大移動」がくりひろげられていた。両親や親戚に子供の成長を見てもらうため、久しぶりの故郷への帰省や旅行など、早くから計画を立ていそいそと準備をする嬉しいお盆行事である。

そんな楽しい時も終わり、我が家に帰り荷物をほどき「ホット」するひと時を感じる。

帰って来る我が家のあることは、ほとんど意識しない。もし我が家がなければ・・・。

ふと「死んだらどこへ行くのか？」の言葉がよぎる。私は往き先・還っていく処が分かっているのだろうか。

今年の冬、主人を亡くされた奥様が、親しい人に暑中見舞いの葉書にそのことを伝えられた。すぐに返信があり、お悔やみの言葉と共に「お浄土もにぎやかになりますね」と。いつも聞法されている方の深い味わいのある言葉が返ってきた。

「往き先がわかれば　生き方がわかる」、往き先がわかれば、生きていく姿勢・生き様が分かる。「おかえり」と迎え摂られる世界・還らせて頂く世界が約束されていることに気付かされれば、安心安堵の生き方と報恩感謝の生活を送らせてもらうだけである。

（脇阪　義幸　記）

秋季永代経法要

9月22日(金)午後1時30分　お勤め(阿弥陀経)
2時00分　法話：脇阪住職・大橋伊知郎
3時00分　おわり

平成29年度　秋季彼岸

9月20日(水)お彼岸の入り・23日(祝)お中日・26日(火)お結願

蝉の声が止み、秋の虫たちの声が聞こえるようになりました。まもなく秋のお彼岸を迎えます。『秋分の日』(秋の彼岸のお中日)は、「祖先を敬い、亡くなられた方々を偲(しの)ぶ」とある、大切な仏教週間であります。『偲ぶ』という字は、にんべんに「思う」と書きます。まさにその人を思い・訪(とぶら)い、命のつながりと寿(いのち)(仏法)の継承に感謝申し上げ、まず南無阿弥陀仏のおしえを聞かせて頂く日にしたいものです。

例年の通り、西徳寺では彼岸中に上記ご案内の如く「**秋季永代経法要**(しゅうきえいたいきょうほうよう)」をおつとめ致します。ご家族揃ってお参り頂きますよう、お待ちしております。

「**永代経法要**」は、浄土真宗独自の「追慕のかたち」といえます。永代にわたってお勤めをする法要で、他宗で言う亡き人の追善供養とはちがいます。永代祠堂経(しどうきょう)とも呼ばれ、仏法を聴聞する場(祠堂=本堂)が永代にわたって維持されることを願って勤められる法要であります。

親鸞聖人は、亡くなられた方々を「諸仏」と拝まれました。私を南無阿弥陀仏の教えに導いてくださった尊い方々であるということです。亡くなられた方々の大切なご縁を通して、命かけて伝えて頂いた『お説法』を聞かせて頂きましょう。

榎本相談役

会場（根岸宮川）

青年会 夏期ミーティング

去る7月25日(火)、仏教青年会夏期ミーティング「榎本前会長を讃える会」を、蒲焼割烹「根ぎし・宮川」にて行いました。

29名の参加者とともに、30年に渡り仏教青年会を支えてくださった榎本夫妻の活躍を、賑やかに讃えました。

会の最中に脇阪住職より「相談役」の委嘱状が渡され、新たに榎本相談役が誕生し、会場からは大きな拍手が起こりました。

今後も不退の青年会魂で活動してまいります。

(仲井 真裕 記)

親鸞さんのことば

穢を捨て浄を欣い、行に惑い、
信に惑い、心昏く識寡なく、
悪重く障多きもの、特に如来の発遣を仰ぎ、
必ず最勝の直道に帰して、
専ら斯の行に奉え、ただ斯の信を崇めよ。
『教行信証』総序

松井憲一

親鸞聖人は、お釈迦さまが八万四千もの教えを説かれたご苦労は、阿弥陀仏の本願の功徳を顕かにすることであると頂かれました。それを受けて、前記のように「煩悩に穢れた迷いの世界を捨てて浄らかなまことの世界を欣いながら、あれこれと行に迷い、信ずることに惑い、心が暗く識ることが少なく、悪重く障り多い者は、特に、往けというお釈迦さまのお勧めの声を仰ぎ、必ず最勝の直道に身をすえて、専らこの行に奉え、ただこの信を崇びうやまえ」といわれます。

「そんとくと　そんたくだけの世の中だ」と言った人がいます。この汚れ濁っている世の中をできるなら避けたいと思う人は多いでしょう。しかし、この世の中に煩悩に穢れた世界を感じても、「ごめんねと　庭に花咲く　草を引く」というような心が起こらなければ、「穢を捨て」ようとはしません。教えに出遇って、「りやくより　りえきもとめる　寺社参り」というわが身よかれの現実が明らかに知らされた時、「浄を欣」う心が起こるのです。だから、「穢を捨て浄を欣」うのは、現実に目を閉じることや自分の都合のよい世界を求めることではありません。そこにはまことに遇いたいという深い願いが秘められているのです。

ところが、まことに遇う道を自分で歩み出すと、まことに遇いたいということも、自我の執われでないかという問題が見えてきます。すると、「行に迷い」という自分の行で歩めるのであろうかという迷いが起こります。行に迷うと、「信に惑い」と、自分の信で大丈夫だろうかというまどいが起こります。自分の思いを立場とする求道にあやふやな姿が見えれば、歩む方向に確信がもてません。それで「信に惑」うことは、心に智慧の明るさがなく、善し悪しや真や偽を識る力もない「心昏く識寡な」い姿であるといわれます。

道を求めながら、道を得ることのできない「心昏く識寡な」い事実に気づくと、善を求めて悪をなし悟りを求めても煩悩に障げられている現実、「悪重く障り多きもの」という生活の実態が知らされます。この生活から逃れる手だてが一つもない懺悔に響くのが、「特に如来の発遣を仰ぎ」という、方向転換なのです。「特に如来の発遣を仰ぎ」とは、この道を「行け」と勧める釈迦如来の教えを仰ぐこと以外にないということです。発遣とは、促し遣わすことで、お釈迦さまの元に来いというのではありません。「行け」の声を手がかりとして、お釈迦さまをしてお釈迦さまたらしめた阿弥陀仏の世界、まことに遇いたいという深い願いに帰れというのが「必ず最勝の直道に帰して」というお勧めです。

「最勝の直道」最も優れたる道は、阿弥陀仏の「直ちに来なさい」という招喚、本願からの呼び声なのです。私たちの助かる道は外にではなく、内なる心のもっとも深いところにある要求に呼びかけることにあるのです。

私たちはすでに、釈迦・弥陀二尊の声の中にあるのですが、聞く耳を持たないのです。だから、親鸞聖人は、「専ら斯の行に奉え、ただ斯の信を崇めよ」と、お念仏と信心は、私が行う念仏や信心ではなく、お釈迦さまのお勧めで明らかになった阿弥陀仏からの贈りものですから、お念仏は奉えるものであり、信心は、崇めるものであると、他力の真意を間違がわないように教えてくださるのです。

山門の言葉

ディズニーランドは　いつまでも未完成
現状維持では　後退するばかり

ウォルト・ディズニー

私はディズニーランドが苦手なのだが、好きな人は目を輝かせている。あまりの自分とのテンションの違いに驚く。日本のディズニーランドは開園以来三十四年が経過してなお、その人気は衰えない。

その理由がこの言葉にあるのだと感じた。ウォルト・ディズニーは一九六六年に亡くなっているが、その精神は今も受け継がれている。

彼ほど偉大な人であれば、それは完成されたものとして受け取られていくのが普通ではないだろうか。偉大であればあるほど、引き継ぐ方々は、どう現状を維持するか心を悩ましたことだろう。

しかし彼は「未完成」と言った。終わりのない歩む精神こそが大切であり、後継者に手渡したかった心ではないだろうか。

時代は目まぐるしく移ろい、人間もまた「生老病死」という刻一刻と変化するいのちを生きている。実は現状維持などあり得ない。だからやっとの思いで作り上げた完成品もあっという間に古くなり色褪せていく。

その事実を彼はよく知っていたのだろう。「未完成」という言葉には、自分自身が歩み続ける原動力であるのはもちろん、後の人には「私の完成品を壊し、あなた方が新たに創造してゆけ」というメッセージなのだと響いてくる。

お寺は歴史が古い。物にしても行事にしても歴史が重なってきたからこそ、完成品が多いように思ってきた。「昔からこうだった…」「こういうものだ…」それは事実であるけれども、果たして完成品だろうか。そんな疑問を持つようになった。

もう一度先達が重ねてきた歴史を掘り起こし訪ね、試行錯誤した痕跡を感じることから始めようと思う。そこに触れて初めて「未完成」の歩みが始まるのではないだろうか。

（山崎　哲　記）

日　誌

7月13日～16日	盂蘭盆会
7月22日	混声合唱団「エコー」練習
7月23日	中央ブロック会聞法会（西徳寺・参加者21名）
7月25日	仏教青年会夏季ミーティング「榎本前会長を讃える会」（参加者29名）
7月26日	婦人会聞法会
7月27日～28日	宗祖忌
7月30日	第一次保全工事　落成慶讃法要（参加者　約180名）
8月5日	定例聞法会、落語鑑賞会、混声合唱団「エコー」練習
8月7日・8日	中興忌

さとくじ婦人会だより

第335号

婦人会専用口座：
名義　西徳寺婦人会
番号　10030 239 82431

～法語カレンダーに聞く～（2017年7月）

「功徳（くどく）の宝海（ほうかい）みちみちて　煩悩の濁水（じょくすい）へだてなし」

近年、局地的な集中豪雨がニュースで取り上げられることが多くなった。ゲリラ豪雨という新語が生まれるほど、身近な災害の一つとして注目されている。大雨によって川が氾濫し、濁流となって押し寄せ、私たちの生活を一瞬にして奪い去っていく。

親鸞聖人は、人間が生まれながらにかかえている煩悩を、濁水と表される。それは自分の知識で是非善悪を判断し、また世の中の常識に惑わされ、ありのままに物事を見ることができない、私たちの無明（無知）の姿をいいあてた言葉であろう。無明とは、自分の都合を優先する、濁った眼でしか物事を判断できない存在であることを、知らない生き方である。

南無阿弥陀仏の功徳は、濁水を清水に変えるのではなく、濁水のまま引き受けてくださる阿弥陀仏の大悲のはたらきである。煩悩が消え、悩みや苦しみから解放されるのではなく、むしろ病気や困難が縁となって、今まで気づくことのなかった、私のいのちを支えている背景に眼が開かれるのではないだろうか。生活が変わるのではない、生活を見る眼が変わるのである。

（蓮井　邦宗）

次回聞法会のご案内

日　時　平成29年10月18日（水）午後1時～3時
場　所　西徳寺　星月の間
法　話　法語カレンダーに聞く（真宗教団連合カレンダー）
「ねてもさめてもへだてなく　南無阿弥陀仏をとなうべし」
最高顧問　大谷 義博
蓮井 邦宗

婦人会食事会ご案内　～大衆演劇観劇会～

日　時　平成29年11月15日（水）午後12時～（11時30分、現地集合）
場　所　浅草　木馬館
親睦会　浅草　釜飯　麻鳥
会　費　6，000円
締め切り　10月18日（水）　お問い合わせは担当・蓮井まで

ひとこと

7月18日、105歳まで現役医師としてご活躍された、日野原重明先生が亡くなられました。10年以上も朝日新聞の土曜朝刊に掲載された"あるがまま行く"のエッセイは素晴らしく、いつも楽しみに拝読していました。

先生は、生活習慣病の提唱、新老人の発足、予防医学など、多岐にわたって日本の医学界に貢献されました。又、日本の将来を担う全国の子供たちと接して、直接聴診器を持たせて、心臓の音を聞かせながら命の尊さを教え続けておられました。

先生の生き方は、生涯、命と平和の尊さを訴え続けておられたと思います。私は与えられた時間を日々新たな気持ちで、これからも精一杯生きなければと、先生から教えられたこの頃です。

（山田　成子）

掲示板 平成29年9月

5日(火)	午後1時半	**『歎異抄』に聞く**	講師　宗正元師
9日(土)	午後3時15分	**混声合唱団「エコー」練習**	
	午後6時	**同行会「現代の聖典」に聞く**	法話　脇阪住職
12日(火)	午後7時	**仏教青年会『歎異抄』に聞く**	講師　宗正元師
13日(水)	午後1時	**婦人会聞法会**	
16日(土)	午後1時半	**定例聞法会**	
	午後3時15分	**混声合唱団「エコー」練習**	
20日(水)～26日(火)		**秋季彼岸会**	
22日(金)	午後1時半	**秋季永代経法要**	法話　脇阪住職・大橋伊知郎

中央ブロック会・聞法会だより

去る7月23日(日)、西徳寺・栴檀の間におきまして、中央ブロック会聞法会を開催いたしました。今回は初参加2名を含む、21名の会員の方に出席していただきました。

法話では、大谷最高顧問から自分の思いに合わないものは排除し、都合のいいものだけを受け入れる。どこまでも自分の思いに執着してしか生きられない。そういう執着の心から解放されることが、仏教が明らかにする救いではないだろうかと、教えていただきました。

また今回は、「暮らしの中の民生委員」というテーマで、当会幹事であり、民生委員をしておられる安井高明様より、民生委員の具体的な活動と、私たちが生活の中でどのように関わっていく存在なのかを、丁寧に話していただきました。

次回は**平成29年11月12日(日)、西徳寺**におきまして聞法会を開催いたします。テーマは「天親菩薩　一～響き合う世界～」です。お誘い合わせの上、大勢の方のご参加をお待ちしております。　(蓮井 邦宗 記)

えこお志お礼

岡山県	正覚寺 様
新潟県	梵行寺 様
葛飾区	小松 正秀 様
鎌ケ谷市	鈴木 秀夫 様
蓮田市	谷 久子 様

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。
ご芳名の掲載をもってお礼とさせて頂きます。

編集後記

母親が認知症を発症したのをきっかけに、亡くなるまでの16年間、懸命に介護をされた方が出棺時のご挨拶で、「お袋の面倒を見させてもらって、辛いことは数え切れないほどありましたが、嫌だと思ったことは一度もありませんでした」と仰いました。

これまで「辛いこと＝嫌なこと」という方程式でしか生きてこなかった私にとって、自分の価値観を大きく揺さぶられるお言葉でした。　(主任　木村 記)

西徳寺ホームページアドレス：
HP http://saitokuji.tobiiro.jp/
ゆうちょ銀行お振り込み口座　00120-0-80670 名義 西徳寺

※「えこお」に対してのご意見・ご感想をお寄せ下さい。
(メールでも結構です)
saitokuji@ce.wakwak.com